能登の里山景観と祈りの山々

坂下　博晃

聞き手・松谷　朋美　吉野　果樹（石川県立鹿西高等学校２年）

プロフィール

名前は、坂下博晃です。生まれは能登町で、34 歳です。高校は珠洲市の飯田高校で、今は廃線になってしまいましたが、のと鉄道で通っていました。ふるさとの景観として、心に残るのは、富山湾を隔てた立山連邦で、天気のいい日には、立山を眺めながら生活していました。その後、大学へ進学するため、ふるさとをはなれることになりました。大学では、考古学を専攻しました。卒業後、県内の埋蔵文化財調査に携わらせていただいて、現在は中能登町教育委員会で文化財担当として業務に従事させていただいています。

小学生の頃は、学校から帰ったらランドセルをおいて、山や海に遊びに行っていました。小学５年生の時に、新保遺跡という縄文遺跡へ友人に連れて行ってもらいました。友人に「この畑歩いたら、土器とか矢じりが落ちとるよ。」って言われて、これが「縄文人が使っていた道具か」と思いました。当時、なぜかわからないですけど、興味をもったのでしょうね。そのとき拾ったものは今でも大事に持っています。

大学の進路を決めるときには周りからは、「文系なら経済学部か法学部か文学部？」「なんで遺跡なの？」みたいなことをいっぱい言われたような気がしましたけど、家ではそういうことは言われませんでした。今はありがたかったと思っています。

文化財の仕事

文化財は守り伝えられてきた貴重な財産です。まさに地域の宝で、これを確実に未来へ引き継いでいかなければなりませんし、継承されてきた文化財を知っていただくことも大事なことだと考えています。

業務では、文化財の保護と活用を図るための調査研究や資料館での展示、来館者への案内、地域にうかがって町の文化財についてお話をする出前講座などを実施しています。

（左）眉丈山に築かれた能登の王墓　雨の宮古墳群
（上）普段坂下さんが働いている「ラピア鹿島」

町には地域に誇れる文化財として国指定史跡「雨の宮古墳群」や「石動山（せきどうさん）」、地域の織物産業の起源となった「能登（のと）上布（じょうふ）」があります。

山々の史跡

雨の宮古墳群は、邑知（おうち）平野の西側、眉丈山（びじょうざん）に４世紀中頃から５世紀初頭に築かれた古墳群で、大小合わせて 36 基からなります。眉丈山の最高所に築かれた県内最大規模の前方後方墳からは、この地域を広く見下ろすことができます。まさに能登の王墓としてふさわしい場所に位置しています。発掘調査で出土した武器・武具類や腕飾類などからも古墳時代の能登の王の権力を感じ取ることができます。

眉丈山系の反対側の石動山系には、能登と越中の国境にまたがる標高 564 mの石動山があります。山岳修験の拠点として栄えた霊場で、最盛期には 360 坊余りの僧坊と衆徒 3000 人が暮らしていたと伝わっています。その規模は能登の宗教都市といって過言でありません。

石動山の調査研究、そして保存と活用

石動山は、中能登町だけでなく、能登そして北陸の中でも歴史的に重要な位置を占める史跡です。石動山には、まだまだ私たちの知らない歴史が埋もれていることと思います。

たとえば、石動山から出土した茶碗など焼物があります。石動山のお坊さんがどんな茶碗を使っていたか、それは日本のものなのか、はたまた大陸の方からきたものなのか調べるだけで、暮らしの様子や海を越えたものの流れまでわかるようになるし、茶碗とセットで茶臼も出てきたら、お茶を嗜むような生活で風雅な日々を送っていたのではないかと、また考えが巡ります。歴史を考えるヒントは、なにも発掘調査で得られた成果だけでなく、残されてきた古文書や地域に伝わる伝統行事、語り継がれてきた伝承も同じく重要です。

現地に行くといろいろな発見があります。もちろん遊歩道など整備された道以外のところにも行きますし、場所によっては山中を歩くこともあります。ですが、現地に行くことで、発掘調査で得られた成果を確認し、古文書に記された場所に足を運ぶことで、また新しい発見があります。少しずつかもしれませんが、調査研究により石動山の歴史を明らかにし、その魅力を発信していきたいと考えています。

調査研究だけでなく、発掘調査で確認された遺構や遺物だけでなく多様です。未来へ引き継ぐため適切に保管し、またそれを展示活用することで史跡を史跡に石動山だけでなく町には地域の歴史・文化を伝える文化財があります。

昔の物を収集するだけではなく、保存したり管理したりしています。さらに、集めたものを調査します。そして、調査研究で分かったことを住民の皆さんに伝え、活用することを考えます。今後も調査が終わったからといっていらないものではないので、保存管理をして無くならないように残していきます。遺跡で発掘したものは、空気に触れると劣化していくのでどうしたら劣化しないで保存できるかも考えています。

石動山の歴史

石動山は江戸時代に作成された縁起によると、泰澄というお坊さんが 717 年に開山したと伝えられていて、今からちょうど 1300 年前です。平安時代に編纂された延喜式という各国々の有力な神社が書かれた書物があるのですが、その中に伊須流岐比古（いするぎひこ）神社として石動山が登場します。そのことより、石動彦神がまつられていることがわかります。

（上）神輿堂（現在　伊須流岐比古神社拝殿）　元禄 14 年（1701 年）の建築。
（左下）拝殿手前に並んでいる大きな石が現拝殿以前にあった建物の礎石。
（右）石動山資料館（上：外観　下：館内）

どうして神が祀られたかというと、田んぼや畑を潤す水を供給する山であり、日本海を航海する人々の目印としての広い信仰を集めたからだと思います。もとは里の人々が山の恵みに感謝する自然崇拝から、この石動山への信仰が始まったのだといわれています。そこに神が宿り社殿が建ち、堂塔の伽藍（がらん）が整備され、それを取り巻くように僧坊が建ち並んでいた風景があったのだと思います。古代より祈りの山として、発展してきた石動山ですが、幾多の戦乱に巻き込まれながらも再興し、存続してきました。しかし、明治の神仏分離令により、衰退の一途をたどることになりました。今は、その歴史を継承するため、整備が行われた史跡公園や資料館で歴史を学ぶことができます。その他にも、魅力あふれる歴史と文化がこの地域には息づいています。

能登の里山景観

能登半島は低い山々と丘陵からなり、白山を抱える加賀と比べて水源が乏しいところです。能登最大の穀倉地帯が形成

されている中能登町一帯は、緑豊かな山々とのどかな田園風景が広がり、田畑を潤す水は石動山や眉丈山の山系からもたらされ、先人たちはため池を築き、用水を引くことで平野を開発して、今にみる里山景観が広がったのだと思います。

その貴重な水を平野部に供給するのが、さきほどお話した眉丈山系と石動山系の山々です。里山に住む人々は、平野の開発をすすめながら、この恵みの水を供給する山々に感謝の祈りをささげています。

眉丈山の雨の宮１号墳では、天日陰比咩（あめひかげひめ）神社（通称　雨の宮）が鎮座し、古くから水の神を祀る社でした。社殿はもともと古墳の上に建てられ、雨乞い神事の際には五色の旗が立てられ太鼓が打ち鳴らされたそうです。雨が降ると里の人々は喜び曳山を繰り出している写真や記録などが今も残っています。

石動山でも雨乞いは、いするぎ法師たちの行事となっており、雨乞いで使用されたとみられる掛け軸や祈祷の際に供えられたイワシガ池の水がいまも湧き出ています。

これらの山々は能登の里山に暮らす人々にとって、恵みの山であり、また祈りの山として継承されてきたと思っています。

目標

文化財の大きな役割の一つが、地元の人に知っていただくことです。生まれ育ったところがどういうところなのか、自分の生まれた故郷の文化や歴史について知っていただくことに大いに役立ちます。小学校の学校教育に取り入れていただければ私もうれしいですし、老人会でも「うちの地元古墳いっぱいあるっていうけど行ってみたいわ」とか「石動山っていう信仰の山があるから行ってみたい」という希望があれば、どれだけでも案内をしたいと思っています。

もう一つは文化財を観光に生かすということです。そのためには、地元の人に知っていただくのも、他の人に知っていただくのも、どうやって知ってもらうかがポイントになります。地域の歴史をどう掘り起こすか、どういった物がこの地域の魅力で、今までわからなかったことを学芸員や役場の文化財担当という立場でどう見つけるかということです。

文化財というのはその地域の宝だと思っています。その宝がぽつぽつと眠っているわけでは無いので、丹念に調査研究をして、考え直すことや読み直すことを何度も試みます。仕事によって地域の魅力を積極的に掘り起こしていく、それ

復元されたお寺（左）とお寺の跡地（上）
近年ではイノシシによる被害も増えている。（下左：イノシシの被害を受けふさがれた水路　下右：イノシシを捕まえるわな）

を地域の住民も皆さんや、私たちの町に観光で来ていただく方々に還元していくこと、それが目標の１つです。

取材の様子

最後に

町には地域で守り伝えられてきた多様な文化財があります。この文化財の調査研究を通してわかったことを地域のみなさんに、これまで以上にもっと伝えたいですし、一緒になって学びたいと思います。郷土の歴史や文化を少しでも知っていただいて、自分の生まれ育ったところに誇りをもってほしいです。特に、大学など進学で能登を離れることになることがあるかと思いますが、ふるさとを離れることで、自分の生まれ育ったところの良さに気付かれることがあると思います。そうしたときに、自分の生まれ育ったところは、海があって、山があって、こんな歴史があって、こんな文化が根付いていて、と少しでもふるさとのことを思っていただければ、うれしく思います。

文化財を通して歴史や文化に触れて、自分の生まれたところに誇りをもって成長してもらいたいです。

［取材日　平成 29 年８月２日、21 日］

PROFILE

坂下　博晃 さかした　ひろあき

昭和 57 年 10 月３日・34 歳
中能登町教育委員会　教育文化課　文化財保護係

大学卒業後、石川県埋蔵文化財センター、金沢城調査研究の仕事をした後、中能登町教育委員会に就いた。石動山の調査研究のかたわら、地域の人々に歴史や文化を伝えるため、出前講座などの取り組みも行っている。

● 取材を終えての感想 ●

私は初めての聞き書きを体験して、昨年の作品のようにうまくできるのか心配でした。聞き書きは、書きおこしやレポートをまとめるのがかなり大変でしたが、ちゃんと完成させることができたので良かったです。この経験が私にとってとても良い経験になったので、これからの生活や勉強に生かしていきたいなと思いました。

坂下さんに会うまではどんな方かわからなかったので不安でいっぱいでしたが、坂下さんは、とても優しくて良い方だったので、この聞き書きを楽しく進めていくことができました。

私は、石動山に行ったことがあまりなかったのですが、坂下さんの話を聞いたり、石動山に連れて行ってもらったりして、石動山の歴史をよく知ることが出来ました。そのことで、中能登町に興味を持つことができたので、もっとたくさんの人に石動山の歴史を知ってもらい、中能登町に興味を持ってもらいたいなと思いました。

松谷　朋美（写真：左）

今回、聞き書きに参加して初めて石動山という山を知りました。取材をさせていただいて私たちの通う学校の近くにある石動山はとても歴史のある山だと知り驚きました。坂下さんはそんな歴史のある山を地域の方々に伝えるためにいろいろなことをされていると知りました。私たちも今回の聞き書きという形で石動山のことを少しでも伝えられたらいいなと思いました。しかし、レポートを書くのは思っていたよりも大変でした。聞いたことをうまくまとめるという作業は難しかったですが、いい経験になりました。今まで私の中で山は登るというイメージでしたが、今回の取材で、山には長い歴史や文化が隠れている面白いものというイメージに変わりました。今後山に登る機会があったら今回聞いたことを思い出して登ってみたいです。今回このような貴重な経験をさせていただいた方々に感謝します。

吉野　果樹（写真：右）